大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

大阪あそ歩 OSAKA ASOBO®

「梅田すてんしょ」に陸蒸気がやってきた！
～明治7年(1874)5月11日から始まった～

明治7年(1874)5月11日、大阪駅開業。当初は堂島に駅を作る予定でしたが「火を噴く陸蒸気は火事の元や！」と猛反対。人家のない湿地帯で、牛の薮入りや梅田墓地など、なんの変哲もない村落の光景だった曽根崎村の地が駅開発の土地として選ばれました。その後、阪神、阪急といった私鉄の参入によって、大阪駅は大阪最大のターミナル駅へと進化「。梅田すてんしょ」の変遷と、開発の歴史を探ります！

①大阪駅

明治7年(1874) 5月11日、大阪～神戸間の駅として開業。2年前に開通した東京～横浜間に次いで2番目の路線でした。当初は堂島に駅を作る予定でしたが蒸気機関車は火事の元になると猛反対があり、人家のない湿地帯の曽根崎村字天童が選ばれました。政府が名づけた駅名は「大阪駅」でしたが、大阪人はステーション(英語で駅の意味)を「すてんしょ」と呼んで、地域名の梅田と足して「梅田すてんしょ」と愛称しました。その後、東海道線全通で利用客増大のため、明治34年(1901) に、ほぼ現在地に2代目大阪駅を開業。石造の駅舎は一躍、大阪の新名所にもなりました。3代目の大阪駅は昭和15年(1940)開業で、5階建てホテルの併設が計画されましたが、戦局悪化と資材不足により、中央部分は5階建てですが、左右は3階建ての「凸」姿でした。また梅田貨物駅を併設し、出入橋からの掘割が続いて船による荷物運搬もされ、水陸運の中心となりました。4代目大阪駅は昭和54年(1979) 開業で、その後、ホテルや百貨店を併設して、総合ステーションに。平成23年(2011)5月に大阪駅を中心にノースゲートビルディングとサウスゲートビルディングで構成された新駅ビル・大阪ステーションシティが誕生しました。

②吉本五郎右衛門

明治4年(1871)、政府は停車場用地として梅田界隈の東西三百五十間(約630メートル)・南北百五十間(約270メートル)を購入。この付近の土地は、梅田の大地主として知られる吉本五郎右衛門や、渡辺新右衛門、渡辺又兵衛などの所有でした。また梅田停車場構内には坪数八万坪、外に三千坪の船渠があり、その大部分は吉本五郎右衛門の私有地であったので、この近辺の土地は今でも第二吉本ビルディング(株)が引き継いで管理しています。

③牛の薮入り

いまの大阪駅から北野へ続く梅田堤は、明治初年(1868)の頃まで、春には一面に菜の花が咲き、れんげ、たんぽぽの摘み草で賑わう場所でした。毎年、陰暦5月5日(端午の節句)の朝には、牛の背中に新しい鞍を置いて、角を紅白の布で巻き、菖蒲や牡丹などの花で牛を装飾して、終日自由に遊ばせる「牛の薮入り」という風習がありました。また粽(ちまき)をたくさん作って、集まってきた見物人に撒き、この粽は疱瘡に効くとされました。

④梅田三昧

大阪市内には大坂七墓といわれる古い墓地がいくつかあり、梅田はそのうちの1つです。また、梅田墓地は別名「梅田三昧」と呼ばれていました。現在の貨物ヤード南西方向にこんもりと繁る緑地帯に往事を偲ぶ雰囲気が残っています。

⑤阪神電鉄 出入橋駅跡（大阪側最初のターミナル駅）

明治32年(1899)、摂津電気鉄道が大阪－神戸間に鉄道設立認可を取得。分かりやすいように起点と終点の地名を取ったのが「阪神電気鉄道」の名前の由来です。明治38年(1905)に神戸(三宮)～大阪(出入橋)間に営業を開始しました。当時の車両は日本初の大型ボギー車両で運転時間は９０分でした。当時すでに官設線があったので、時速約13キロメートルを超えないこと、車両の連結運転をしないといった認可条件がありました。その後、船場の旦那衆が芦屋や御影に別荘を所有し始め、沿線宅地化や、大正13年(1924)の甲子園球場開設などで利用者は増大しました。その後出入橋ー梅田間に仮線が出来、梅田へのアクセスが便利になりました。

⑥出入橋

かつて堂島川(大川)と連結していた梅田運河に架かっていた橋で、現在は埋め立てられていますが、かつての堀の様子が少し残っています。大阪駅開業によって陸運が盛んになりましたが、船を利用して大阪駅まで荷物を運ぶ舟運も盛んで、その起点となったのが出入橋でした。明治45年(1912)から大正10年(1921)までは、橋から100メートルほど南下した場所に大阪市役所があり、大阪市政の中心地でした。出入橋東詰には昭和5年(1930)創業の「出入橋きんつば屋」があり、橋の歴史を見守ってきました。

⑦元櫻橋石碑

かつての蜆川に架かっていました。堂島アバンザ北側に元桜橋南詰の石碑があります。近松門左衛門の『心中天の網島』の「名残の橋尽し」で「別れを嘆き、悲しみて、後にこがるる桜橋」と登場します。

⑧道路元標

国道1号線(始点東京都中央区日本橋終点梅田新道交差点)と国道2号線(始点梅田新道交差点終点福岡県北九州市門司区)の結節点であり、昭和27年(1952)12月に国道の終点・起点を示す道路元標が設置されています(以前は大阪市役所に設置)。

⑨徳兵衛大明神

昔、曽根崎の蜆川のほとりに古く荒れて、参拝者の姿も途絶えた祠がありました。徳兵衛と伝えられる方がこの祠を修理し、精進怠りなく毎日合掌をしていたところ霊験あらたかな祠となり、その後、参拝者がひきも切らなくなった…という伝承があります。時代が移り変わり、またもや祠は無くなってしまいましたが、大阪駅前ビルの有志の方が祠を再現し、現在に至っています。

⑩げんつきげんちゃん

世界的に活躍する彫刻家・流政之(ながれまさゆき)の作品で、鍾馗さん(唐の時代に玄宗皇帝の夢にでた鬼を退治した人物。災厄払いの守り神)をモチーフにし、背中には大阪らしく千成びょうたんがモチーフとして使われています。流氏は昭和42年(1967)に『TIME』誌が選ぶ日本を代表する文化人の1人に選ばれるなど、海外での評価が高く、ニューヨーク近代美術館の永久保存作品となった「受」などが代表作です。

⑪阪神百貨店デパ地下

阪神百貨店梅田店地下1階は有名な「いかやき」や「ちょぼやき」があり、値段が安くおいしいと評判で人通りが絶えません。また、鮮魚コーナーはデパートでありながら対面販売にこだわり、威勢のいい掛け声が飛び交い、そのお蔭で鮮魚コーナーはデパート地下売上日本一を記録した事もあります。

⑫阪急梅田駅の切り替え工事

大正11年(1922)、阪急電鉄に大阪市内高架乗入線の敷設許可がおり、大正15年(1926)に梅田駅が建設されました。当時は省線(現JR)の高架計画はなく、阪急電鉄は高架で梅田駅まで、省線は地上で大阪駅まで通じていました。その後、昭和6年(1931)に省線の高架化計画が決定。阪急電鉄は地上駅を再度造る事になりました。この高架駅から地上駅への転換は昭和9年(1934)5月31日のことで、最終列車が通過した後、砂利を敷いて線路を整備、一夜の内に切替え工事を終了させました。省線も7箇所の軌道切替え工事を徹夜で実施。6月1日の始発から省線は高架に阪急電鉄は地上に変わりました。当時、阪急電鉄の会長だった小林一三氏も工事の陣頭指揮にあたり、工事成功を見守り、宝塚線の一番電車に乗りました。

【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】 大阪コミュニティ･ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局　電話06-6282-5930（財団法人大阪観光コンベンション協会内）「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。　http://www.osaka-asobo.jp　または　大阪あそ歩　でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。